

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597200017		
法人名	社会福祉法人 和木三志会		
事業所名	グループホームわきあいあい苑		
所在地	山口県玖珂郡和木町瀬田4丁目1-1		
自己評価作成日		評価結果市町受理日	平成26年4月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年 10月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者、ご家族の思いを大切に、安心して過ごしていただけるよう努めている。
・散歩や外食など外出の機会をつくり、楽しみのある生活が送れるよう努めている。
・食事は入居者と一緒に3食手作りをしている。食器や盛りつけで季節を感じていただける様工夫している
・掃除、洗濯を入居者と一緒に行い、一人一人が役割をもった生活ができる工夫をしている。
・散歩やレクリエーションを日課に取り入れ、楽しみをもてるよう支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の管理栄養士に相談され、利用者の好みを取り入れた献立を職員が立てて、三食とも事業所で食事づくりをしてもらえ、栄養バランスに配慮された食事を提供してられます。利用者は食事づくりや後片付けなどできることを職員と一緒にされ、職員は利用者と同じ食卓を囲んで同じものを食べてもらえ、季節の話題などで会話をしながら、利用者の食事が楽しみなものになるように支援されています。テレビやDVDを視聴されたり、新聞や本を読まれたり、近くのパラ公園に出かけて、花を眺められたり、遊びに来ている子供たちと会話されたり、ウサギの餌やり、散歩、買い物、外食、野菜づくり、食事づくり、弁当を持参して戸外で食べられたり、季節ごとの行事や花見など利用者の楽しみごとや活躍できる場面づくりをされ、張り合いや喜びの暮らしができるように支援に取り組まれています。協力医療機関を利用者のかかりつけ医にしておられ、週2回の往診がある他、緊急時に併設施設の看護師の協力が得られるなど、適切な医療が受けられるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人の思いと家族の思いに寄り添い、笑顔で暮らしていただくことをモットーにしている。	法人の理念を事業所の目標にして、家族に利用者の状況を伝え、家族の思いに寄り添えるように取り組んでいる。地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を作成するまでには至っていない。	・地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念の作成
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に近隣に散歩に出かけ、地域の方たちと交流をしている。また、ボランティアの訪問などを受け入れ、入居者との交流の機会をもっている。	近くにある公園に出かけ、地域の人や子供たちと挨拶を交わしたり、会話を楽しんでいる他、散歩中に花をもらうなど日常的に交流している。年1回の法人主催の夏祭りに、子供会や近隣住民の参加がある他、併設の特別養護老人ホームに来訪しているボランティアの演技を見学するなどしている。中学生や地域のボランティアが来訪して窓拭きや掃除、草取りなどをして利用者と交流している。町の依頼で管理者は「いきいきサロン」や小学校に出かけて行き認知症の理解を得る講話や事業所の説明などをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で活動されているサロンへ出向き、グループホームの説明や認知症の方の理解へ向けた活動をしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の結果を職員全員に配布し、意義の理解や改善に向けた努力をしている。	管理者は評価の意義について職員に説明した後、前回の評価結果を参考にして、できていない項目について個別に職員から聞き取りをしてまとめている。全職員で自己評価に取り組むまでには至っていない。評価の結果を活かして、誤嚥やノロウイルスの対応について訓練を実施するなど、できることから改善に取り組んでいる。	・全職員での評価への取り組み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、特養施設長、管理者の参加で、2ヶ月に1回開催し、状況報告、意見交換を行っている。	2ヶ月に1回開催し、事業所の状況や取り組みについて報告し、意見交換している。地域包括支援センター職員の意見を活かして、地域のサロンで認知症の講話をするなどしている。記録が十分とは言えない。	・地域メンバーの拡大 ・会議の記録方法の検討
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の保健福祉課、地域包括支援センターと連携し、情報交換や助言を受けている。	担当課には、電話や直接出向いて情報交換している他、相談をして助言を得るなど協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは、運営推進会議で情報交換している他、日頃から連絡を取っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の人権に配慮し、身体拘束のないケアを目指している。現在は入居者の方の様子をみて、必要な場合は玄関を施錠する事もある。	内部研修で学び、職員は身体拘束について正しく理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。利用者の状況に合わせて玄関の施錠をすることもあるが、日常的な施錠はしていない。利用者の希望にそって一緒に外に出かている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常のケアについては相互に注意しながら虐待につながることをないように配慮している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	山口県社会福祉協議会等から出される、権利擁護に関する資料やホームページに掲載されている情報を基にして研修を行っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に沿って十分説明し、理解・納得していただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接・面会時に家族からの意見を聞き、運営に反映させている。相談苦情受付担当者を置き、処理手続きを定めている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。電話や面会時、運営推進会議時に意見や要望等を聞いている。本人が入浴したくないということで入居前から家族があきらめていた利用者の入浴についての意見を受けて、会議で何度も話し合い、併設施設の風呂の利用やいろいろと工夫を重ね、半年後に入浴が可能になり、現在も利用者に合わせた入浴支援をしているなど意見を反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕の申し送りや勉強会等で職員からの意見を聞き、運営に生かしている。	月1回の勉強会や朝夕の申し送り時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、管理者は日常の業務の中で聞いている。食材の保管庫の整理による調理時間の短縮をしている他、個人記録やファイルの整理、方法の工夫などにより、業務の効率化につなげているなど、職員の意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個々の能力を発揮して働くことができるように、キャリアパスを導入した給与規則の改定に取り組んでいる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加や、事業所内の研修、併設の施設の勉強会などで研修の機会を設けている。また、資格取得の際、勤務調整も行っている。	外部研修は実践者研修と管理者研修への参加の支援をしている。内部研修として毎月テーマを決めて(身体拘束、虐待、成年後見制度、感染症)、管理者が講師を務めて実施している。	・研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、研修会に参加、交流している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談において本人から話を聞き、家族やケアマネジャーからの情報も踏まえて、本人の意向を引き出している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や入所準備の段階での聞き取り、また、担当ケアマネジャーからの情報等を通じ、意向の把握に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族のニーズを把握し、入所時のケアプランに反映させている。他のサービス利用については、今のところ導入していない。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に応じて役割を持った生活を送れるよう、寄り添う気持ちで支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡により家族と情報を共有し、本人と家族の関係にも配慮しながら支援を行っている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人の面会、また、家族の協力で墓参りや帰宅など行っている。併設のデイサービス、ショートステイ利用者と、日常的に交流している。	併設のデイサービスセンターやショートステイの利用者との交流や知人や友人の来訪の支援をしている。家族の協力を得て、墓参り、結婚式や法事への参加、外食や買い物など馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話に気を配り、認知症の症状も考慮に入れ、より良い関係が保たれる様支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養への入所が必要になられた場合、手続きがスムーズに行われる様支援し、その後も本人家族とも交流をもっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の事前面接の情報や、日々の生活の中での発言・思いを記録し、その人らしい生活に反映するよう心がけている。	事前面接での聴き取りのシートを活用している他、日々のケアの中での利用者からの聞き取りや家族からの聞きとりで思いや意向の把握に努めているが、十分とは言えない。	・思いや意向の把握方法の検討
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の事前面接を通じて、生活歴などの把握に努めている。ご本人や家族、他のサービス事業所からの情報も参考にしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや、排泄、食事量のチェックを行い、健康状態の把握に努めている。また、個人記録や申し送りで情報を集めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向、医師の意見などを基本に、担当スタッフ、サービス計画担当者で話し合い、ケアの見直しをはかっている。状態の変化があれば、その都度検討している。	家族や本人、医師の意見を参考に、利用者を担当する職員や計画作成担当者を中心に話し合い介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、期間に応じた見直しや状態に変化が生じた場合はその都度見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに日々の状態を記録し、スタッフが勤務前に目を通すことで情報を共有している。朝・夕申し送りを行い、伝達・確認をして実践につなげている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在のところ、外出支援程度に止まっているが、他のニーズが生まれれば検討していきたい。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の衣料品店など、馴染みのある店へ買い物に出かけている。事前に連絡し、店の協力を得て買い物を楽しんでいた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の了解を得て、協力医院をかかりつけ医として、週2回往診を受けている。他科受診は家族に付き添っていただくが、必要な情報を伝えている。	協力医療機関をかかりつけ医とし、週2回の往診の支援や、家族の協力を得て他科受診をする場合は、利用者の状況を文書で医師に伝えるなどの支援をしている。緊急時には、併設施設の看護師の支援が得られるなど、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の事業所の看護職員に相談し、入居者の健康管理について適切な対応を心がけている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族、病院関係者と情報交換し、より安心して治療が受けられる様、配慮している。また、通院時にはカンファレンスの機会を持っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについて、契約時に説明。状況に応じて、併設の特養と連携をとりながら家族の意向を尊重し対応している。	契約時に重度化や終末期に向けた事業所でできる対応について、家族に口頭で説明している。実際に重度化した場合は、家族や医師と話し合い、移設も含めて方針を共有して支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリ・ハット事故報告書に記録し、職員で対応策を話し合い、事故防止の意識を共有している。また、応急手当や初期対応の勉強会をし緊急時に備えている。	ヒヤリハット、事故報告書に記録してその場にあった職員で対応策を話し合い、申し送りノートや報告書に記入して回覧し、全職員で共有して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。誤嚥やノロウイルスについての訓練は実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、入居者が安全に避難できる方法を、全職員で確認している。また、苑の行事を通じて地域との協力体制ができるようにしている。	法人施設と合同で火災時の昼夜間を想定した、消火、避難訓練、避難場所の確認などを利用者も参加して実施している。地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	紙パンツの使用が分からないようにするなど、プライバシーに配慮した対応をしている。	利用者を家族の一人として寄り添い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、洗濯干しやお盆拭き・調理など、思いのある人に声かけをして実施していただいている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴以外は、体調に合わせて休んでいただいたり、ホールで過ごしていただいたりと、入居者の希望にそった支援を心がけている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各居室にて毎朝洗面支度をして頂いている。化粧の声かけや介助も行っている。入浴時には、衣服を選んでいただいている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事の準備、盛りつけ、配膳、下膳食器洗い、片付けをして頂いている。職員は同じテーブルにつき、同じ食事を摂っている。食器や盛りつけを工夫し楽しい食卓になるように心がけている。	法人の管理栄養士に相談して、利用者の好みを取り入れた献立を職員が立てて、三食とも事業所で食事づくりをして栄養バランスに配慮した食事を提供している。利用者は食材の買い物や野菜の下ごしらえ、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いなど、一人ひとりができる事を職員と一緒にしている。菜園で採れた野菜を食材に使用することもあり、職員は利用者と同じ食卓を囲んで同じものを食べながら会話をして利用者が食事を楽しめるように支援している。パンケーキやぜんざい、ジュースなどのおやつづくりの他、手づくりの弁当を持参して戸外で食べたり外食など「食」を通した取り組みをしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録をとることや水分補給の支援を行う事により、健康状態の把握に努めている。水分摂取については、午前・午後に1度ずつお茶や軽飲料の時間をもうけたりしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じて口腔ケアの声かけや見守り介助を行っている。毎晩就寝前には義歯洗浄を使用し、清潔保持に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	声かけや定時誘導でトイレでの排泄を支援している。排泄の自立に向けた支援に努めている。	殆どの利用者は排泄の自立をしている。必要な利用者には排泄チェック表でパターンを把握して言葉かけや誘導でトイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトを食べていただくことや、朝食後にトイレ誘導をする事で、自然排便を促している。排泄チェック表にて排便確認を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	職員が1対1で対応し、ゆっくり入浴していたできるようにしている。入浴を嫌がられる人に対しては、足浴の支援を行っている。季節にはバラ湯や柚湯で入浴を楽しんで頂いている。	入浴は毎日14時から16時まで可能で、利用者の希望や体調に合わせて1日3名程度ゆっくり入浴を楽しんでいる。バラの花を浮かべたり、柚湯や入浴剤で香りを楽しんだり、足湯で足のマッサージをして楽しめるように支援している。入浴をしたくない人には言葉かけの工夫や職員が交代するなどの他、足浴での支援など利用者に合わせて支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調に合わせ、活動や休息をとって頂いている。夜間はパジャマへの介助声かけを行い、就寝していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自のファイルに処方箋を綴っており、職員がすぐ確認できるようにしている。週2回の医師の回診にて症状の報告を行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カーテンの開閉、カレンダーの日めくり、食器洗い等自ら進んで行っている。 午後より全体でのレクリエーションの時間をもうけている。	テレビ視聴（歌番組、連続ドラマ、水戸黄門、野球、相撲）、DVD視聴（歌謡コンサート）、新聞や本を読む、広告をメモする、縫い物、編み物、歌を歌う、ぬり絵、ちぎり絵、合わせ絵、折り紙、ラジオ体操、ボール遊び、紙芝居、カルタ、トランプ、野菜づくり（草取り、水やり、収穫）、季節ごとの行事、運動会、散歩、買い物、外食、食事づくり、後片付け、洗濯物たたみ、居室の掃除、カーテンの開閉などの楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、利用者一人ひとりが張り合いや喜びのある暮らしができるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候のよい春・秋に散歩の支援をしている。ご家族の協力のもと、お墓参り、外食など外出されている。	ゴミ出しのために、法人敷地内にあるゴミステーションまで散歩を兼ねて出かけたり、近くのバラ公園に行き、バラの花を見たり、ウサギにキャベツの餌やりをしたり、子どもたちと交流している他、季節ごとの花見や月1回、事業所のリクレーションとして買い物、外食など戸外にでかけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に自分で選んで購入して頂けるように支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者本人から電話や手紙の依頼があった場合は、支援ができる体制を整えている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、季節の花を生けたり、時期によって季節感のある工作を飾るようにしている。温度、湿度を確認し、換気を行っている。	共有空間は広く明るく、季節の花が生けてあり、壁面には季節に合わせた飾りや行事の写真を貼ってあり、季節感が出るように工夫している。台所からは調理の音や匂いがして生活感がある。畳のスペースがあり、利用者は横になったり、洗濯物をたたんだりできる。大きなテレビとソファがあり、仲のよい人同士で過ごしたりしている。テーブルや椅子、ソファは行事によって配置替えをし、それぞれの居場所になっている。温度、湿度、換気、音などに配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の共用空間では、入居者同士で語らう食卓と、一人になれるソファや居室を活用して、できる範囲で居場所の工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ダンス、飾り、テレビ、写真など、ご家庭から持ち込んで、居心地よく過ごしていただくよう配慮している。本人の希望があれば、ご家族と相談しながら、持ち込みを検討している。	ベッド、ダンス、テーブル、椅子、籐椅子、テレビ、衣装掛け、鏡台など使い慣れた物を持ち込み、家族の写真や好みのものを飾って、利用者が安心して過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の能力に応じた居室提供や、生活に必要な物品の配置に気をつけている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームわきあいあい苑

作成日： 平成 26年 4月 7日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	14	施設内研修として、感染症対策や事故発生防止など、管理者等が講師となり研修に取り組んでいるが、職員一人ひとりの実際と力量を把握し、個々のレベルアップに繋がるまでに至っていない。	職員それぞれが働きながらスキルアップできるように、目標をたてて効果的な研修を進めていく。	職員個々の力量に応じた目標を立て、その内容に沿った施設内研修を繰り返す等により、それぞれの職員がレベルアップできるようにしていく。また、外部研修にも積極的に参加できるように努力する。	12ヶ月
2	4	自己評価及び会部評価の結果を職員へ配布し、意見を取り入れながら改善への努力をしているが、全職員で評価の意義の理解を深め具体的な改善に取り組むまでには至っていない。	自己評価及び外部評価を活かし具体的な改善を行っていく。	自己評価や外部評価を実施する意義を全職員で確認する事により理解を深めていく。また、評価の内容を改善に活かしていく部分においても、全職員が共通の意識を持ち取り組んでいく。	12ヶ月
3	1	法人の理念を基にして入居者の方と家族の思いを大切にした介護に取り組んできたが、事業所独自の理念は作成していない。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成する。	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し事業所の理念をつくる。また、打ち合わせや施設内研修の時間を活用する事により、自然に実践ができるようにする。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。